

一升餅という日本の文化について

一年七組 深沢 竜生

古くからの日本の風習の一つに、一歳の誕生日に行う「一升餅」という行事があります。これは餅米一升（約一・五キログラム）のお餅（餅にすると約二キログラム）を風呂敷という布に包んで赤ちゃんに背負わせ、これからの健やかな成長を祝う日本の伝統行事です。

お餅は、英語でも「mochi」と言うことがあるので意味はわかると思いますが、日本人にとって、とてもめでたい食べ物で、一月一日のお正月や三月三日のひな祭りなどの特別な日に食べるものです。また「一升餅」の「一升」は、「一生」と発音が同じで、「一生、食べ物に困らないように」という意味がかけられています。

一歳の赤ちゃんがニキログラムのお餅を背負って立つのはたいへんです。実際に立ってない赤ちゃんもいます。しかし、立てなくても心配はいりません。なぜなら、立つことができたなら身を立てられる、つまり偉くなれる。立てずに座り込んでしまっても一生家にいてくれる、つまり家を継いでくれる。また転んでしまったら厄落としができた、つまり赤ちゃんにふりかかる災難を振り払うことができた、いずれの場合でも家族で喜び合います。

イギリスでも赤ちゃんが生まれると銀のスプーンを贈る「シルバースプーン」という風習があるでしょう。銀は裕福であることの象徴なので、「一生、食べ物に困らないように」という願いが込められているのではないのでしょうか。「一升餅」と「シルバースプーン」、言い方は違いますが、風習に込められた願いは日本とイギリスで共通しています。